

## 情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

### 情報デザイン入門セミナー 報道番組『イッポウ』の大石邦彦キャスター講演

7月4日(月)2時限目、杉本幸雄准教授が担当した「情報デザイン入門セミナー」に中部日本放送所属の大石アナウンサーが登場。18年間のアナウンサー業を振り返り、講演しました。

大学2年生、秋の眠れない夜。ふと自分の将来について考え込んだ大石さん。自分の好きなこと、それは人前でしゃべること。その翌日には、アナウンサー専門学校を調べ、入校したという。神宮球場で野球の実践練習をしたこと。山手線の電車内、1周1時間ぶっ続けで風景実況したこと。これらさまざまな実践トレーニングは人前でしゃべる度胸に繋がったが、周囲の人たちはそんな大石さんを当然避けていたとか…(笑)。

CBCへ入社後の初仕事、絶叫マシン8連発や

寝起きドッキリを受けた話などなど、おもしろくておそろしいテレビ業界の裏話を披露してくれました。

「ロケは1500回」「出会った人は1万5000人」。人と出会うことがこの仕事の幸せと話す大石さん。学生たちにこれからの大学生活「とにかく多くの人と積極的に接しなさい。それは間違いなく社会で生きる、財産となるはずですよ」と語りかけました。

最後に大きな衝撃を受けた3つの出来事。「1995年阪神・淡路大震災」「2000年東海豪雨」「2011年東日本大震災」のレポートについても話しました。

ニュース(映像)で本当に伝えたいこと。何のために火事の現場を報道するのか、また何のために引ったくりの現場を報道するのか…それは「あなたは大丈夫ですか、気をつけてくださいね」という



注意を促す啓発メッセージなのだと訴えました。講演終了後、学生たちに囲まれた大石さん。いつもとは逆、質問攻めにあっていました。「ありがとうございました、本当にありがとうございました!」と握手を求める学生たちの姿はキラキラ輝き、希望に満ちた笑顔でした。



### キャリアセンター 愛知ブランド企業学内説明会を実施

5月20日(金)、本学図書館・大会議室において、「愛知ブランド企業学内説明会」を開催しました。

説明会には愛知ブランド企業13社に参加していただき、また愛知県産業労働部地域産業課にも愛知ブランド企業を紹

介するブースを設けていただき、「愛知ブランド」企業の強みを紹介する映像やパンフレットによる愛知ブランド企業(276社)の紹介などが行われました。

夏を思わせる陽気のなか、スーツ姿の学部生、院生が講義の間の時間をぬつ



### 就職Topics キャリアセンター

内定率100%維持のために 精神的な取り組みを!

て会場に多く訪れました。限られた時間のなかでも最後まで企業担当者に質問をする学生や、その質問に丁寧に答える企業担当者の真剣な姿が印象的でした。

# No.75 2011.7 DAIDO CAMPUS



写真提供:アルバム委員会





大学祭実行委員会主催

# 第46回 大学祭(宴祭)

5月28日(土)・29日(日)の2日間にかけて、第46回大学祭は開催されました。

3月におきた震災等をふまえ、今年度は前夜祭を中止し、本祭と後夜祭のみで計画・実施しました。

昨年度、第45回大学祭実行委員会は不完全燃焼のまま大学祭を終了しており、その悔しさをばねに、第46回大学祭実行委員のメンバーは奮い立ち、今、現在の自分たちができる精一杯のことを企画し今回の大学祭にぶつけました。

不幸にも天候に恵まれず、第46回大学祭は日曜日の13:30をもって終了し、メインである後夜祭も中止という後味の悪いものになってしまいましたが、今年度、実行委員会の行動は目を見張るものがあり、もし天候にさえ裏切られなければ、素晴らしい大学祭を開催できていたはずで

す。次回、第47回では、今回のメンバーそして新たに新入生の力を得て、さらに素晴らしい大学祭を実施してくれるはずで







## クラブ委員会主催 第16回 クラブ対抗ボウリング大会

6月25日(土)13時から、午前中に実施されたエコキャンペーンに引き続き、名古屋グランドボウルにて、第16回クラブ対抗ボウリング大会が開催されました。

今年は1チーム4人編成。参加チーム数30の総勢120人、表向きはクラブ間交流、裏ではクラブのメンツをかけた真剣勝負が繰り広げられました。

歓声と悲鳴が混ざる会場で、およそ2時間のボウリングはあっという間に終わってしまいましたが、そこには新たな交流や団結、そして

思い出が刻まれたと思います。

閉会式。成績発表。個人そして団体。個人はまさかの2連覇を達成したツワモノが現れ、団体では若さ全開のチームが優勝しました。

来年は、個人3連覇を阻止する新たな強者の出現と、さらに団結力を増したクラブが現れることを期待します。

ちなみに、今年も個人を制覇した彼こそがKING OF CLUBであり、すべてのクラブ加入者の頂点に位置する学生として1年間をまっとうします。



### ●成績結果

団体1位 …… 会計監査委員会  
団体2位 …… 硬式野球部  
団体3位 …… 学生室

個人1位 …… 北出 真さん(剣道部3年)  
個人2位 …… 宮崎 崇暢さん(会計監査委員会4年(大学祭実行委員会))  
個人3位 …… 小長谷優介さん(卓球研究会3年)



### ボランティア活動

浜崎 裕史 (工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻 技術員)

2月11日(金)~16日(水)にかけて中国广东省(カントン省)でFIWC東海(NPO法人)が主催する海外ボランティアに参加した。

FIWC東海は浜崎が創立にかかわり2年前に発足し、現在までに中国、インド、インドネシア、そして気仙沼などでボランティア活動を国内外で行ってきた団体である。

今回のボランティア先は中国广东省の南東に位置する全長10kmの島であり、その周りを一面バナナ畑に囲まれた人口およそ100人の泗安(スーアン)医院と呼ばれる村が活動場所となった。

そこにはハンセン病によって島に隔離された村人が住んでおり、村人たちは病気からは

回復しているが、後遺症によって指や足の切断、失明などに苦しんでいる。活動は广东省の中国人大学生たちと共同で行い、スロープ制作や、うどんや味噌汁などの日本食の炊き出し、レクリエーションとしてクイズ大会やダンスなどを行った。

今回で4度目となる泗安医院でのボランティア活動により、島周辺住民の村人への差別的な意識が薄くなってきていることが分かった。それは、隔離されていた島に日本人や中国人大学生たちが入っていくのを島周辺住民が見ることに、彼らが元ハンセン病患者である村人を恐れなくなったことが大きな理由の一つだ。今回のボランティア活動は2年

間の継続した活動が大きな成果として実感することができたものとなった。



▲浜崎さん

DAIDO UNIVERSITY CAFE.

vol.15

DU CAFE.



## 男子ハンドボール部 東海学生選手権、優勝!

6月12日(日)、19日(日)の2日間、本学石井記念体育館で東海学生ハンドボール選手権が開催され、見事、大同大学Aチームがトーナメント戦を制し、優勝を勝ち取りました。

なお、女子ハンドボール部もベスト4と健闘しました。

1回戦	大同大A	34 (16-2・18-6)	8	愛知学泉大B
2回戦	大同大A	19 (10-8・9-9)	17	岐阜大
3回戦	大同大A	22 (11-8・11-7)	15	名城大A
4回戦	大同大A	19 (5-7・8-6・4-1・2-1)	15	名城大B
5回戦	大同大A	17 (12-9・5-4)	13	中京大



### 吹奏楽団

## 柴田学区の交通安全パレードに参加!

5月22日(日)、柴田学区交通・防犯部からの要請で、今年も吹奏楽団が交通安全パレードに参加しました。

柴田小学校の鼓笛隊を先頭に、地域住民の皆さんや消防団員の方々と共に、柴田学区の交通安全の呼び掛けに協力しました。柴

田小学校から自水公園、三井東圧アパート、中部電力住宅を抜けて、大同マシナリー、大同大学の前を通って小学校へ戻るコース。沿道の地域住民の皆さんにも、演奏を楽しんでいただきました。



### ソフトボール同好会

## メ〜テレ『ザキロバ!アシュラのススメ』の撮影に協力

ナゴヤ発…!一風変わった、視聴者一体型スタジオバラエティ、「爆笑」と「なるほど」に満ちたさまざまなスヌメを展開しているバラエティ番組『ザキロバ!アシュラのススメ』(毎週火曜日深夜0:20放送)に、本学ソフトボール同好会が甲子園を目指して白球を追いかけ、練習している高校球児役として番組に

協力参加。さらにアシュラの着ぐるみにも入り、大活躍しました。

出演した5月10日(火)のテーマは、「涙のスヌメ」。笑ってばかりじゃいけない、涙も時には必要なです!と、ゲストに道重さゆみさんを迎え、「爆笑」と「なるほど」、「涙」に満ちた内容でスタジオを沸かせていました。



▲本学の元浜野球場で撮影しました





尾形和哉研究室(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)

## 「ロボカップジャパンオープン2011大阪」で第3位!!

5月3日(火)から5日(木)までの3日間、インテックス大阪2号館で「ロボカップジャパンオープン 2011 大阪」が開催されました。ロボカップは、ラジコンのように人の操作によらず、自分で考えて動く自律移動型ロボットたちの競技会です。2050年までに、人間のワールドカップサッカー優勝チームに勝てる、自律移動のヒューマノイドロボットを完成させるという、壮大な目標を立てた研究者、企業、学生が集い、一般の方にも最新の成果を披露する場として、毎年開催されています。

その大会に、尾形研究室「DU-ST」が参加。チームリーダーは大学院2年生の宮井佑輔さん。競技種目は「中型ロボットリーグ」。縦横

50cm未満のロボット5台でチームを構成して、12m×18mの大きいフィールドを縦横無尽に駆け回ります。全方向を見渡せるカメラを載せており、自分とボールの位置をすばやく判断して動き回る迫力満点のリーグです。今年は見事第3位に輝きました。



今年は東日本大震災の影響によるロボカップ大会経費削減のため、中型リーグのフィールドサイズが従来の12m×18mから6m×8mに縮小された。また、出場ロボットの台数も5台から3台へ減少された。

従来の巨大なフィールドサイズでは本学にて十分なリハーサルができなかったが、今年

のフィールドサイズでは十分とは言えないまでもかなりのフィールド面積がS棟1階のロボット工房に確保できたため、試合とほぼ同じような環境で準備を進めることができた。



たキーパーの動作プログラムの最終調整もできた。

### 5月2日(月)

大会前日は練習に当てられている。搬送中に起きうるトラブル確認後、画像処理のためのキャリブレーション作業や色調整作業と、

この日に予定していた調整作業を順調にクリアした。チームメンバーは繰り返し練習することにより作業の流れを十分に練習できた。ま

## 岐阜県立岐南工業高等学校PTA研修会で本学学生が発表

7月6日(水)、本学ゴビーホールで、岐南工業高等学校PTA研修会が行われ、保護者26人、教員3人が来学しました。90分間の大学説明で、岐南工業高等学校の卒業生高井亮輔さん(工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻3年)と杉山瞬平さん(工学部 建築学科 建築専攻1年)が、キャンパスライフについて発表。保護者の前に立って、二人共堂々と熱く語ってくれました。

高井さんは自ら積極的に就職活動を行い、設計士になるという自分の夢を実現させようとしていることや資格にチャレンジして

いること、また授業(Dラーニング)や学習支援センター、入試のことまで話してくれました。杉山さんはまだ1年生ですが、デザインコンペに応募したり、リメディアル教育、キャリア教育についての体験談などを話してくれました。

保護者の方も学生の生の声とあって、真剣に聞いていました。

会終了後、引率でみえた岐南工業高校の国枝先生は、高井さんに「顔つきがよくなったなあ」としばし談笑していました。



### 5月3日(火) 予選リーグ

v.s. FC-Soromons(福井大学) 1-0 勝  
v.s. KOOGEI-RV(東京工芸大学) 0-1 負  
v.s. WinKIT(金沢工業大学) 0-3 負

初日は各チームとも調整段階の途中であると言えよう。3試合を経て今年の機体は配線の接触不良による故障もなく安定性が高いと確認できた。チームメンバーはロボットの試合前調整作業(カメラの色調値調整など)を確実にこなすことができた。

FC-Soromons、KOOGEI-RV、DU-STの実力はほぼ互角であり、僅差の勝負であった。DU-STは試合中、ロボットのトラブルもほとんどなく、絶えずボールを追いかける姿勢が見られた。しかし、フリーになったボールへ

のアプローチに俊敏さを欠き、多くのチャンスを逃してしまった。これはボールに回り込むための速度指令値の生成、他のロボットに接触しないような速度指令値の生成などのプログラムが複雑になっており、予想できない動作になっているからであろう。

WinKITのロボットは秀逸なボールドリブル機構を持っており、ゴール前での機敏な切り返しにより確実にゴールを決められた。

我がチームの近年の最大の技術課題である白線情報による自己位置同定は高精度に実行されていたと確認できた。対FC-Soromons戦は両チームが白線情報による自己位置同定技術をマスターしていたため、色なしゴールを用いた高度技術を要する試合であったが、



DU-STのロボットはゴール前で確実にシュート動作をしており、満足する結果が得られた。(注意:従来はゴールに黄色、青色が付けられており、それらをランドマークとしてロボットの運動指令を作成することができたが、ルールの改正によりゴールの色は白となった。その結果、ゴールをランドマークとして使用できなくなり、フィールドラインの情報を画像検出しながら、自分のポジションを計算する手法が必要となった。今年の参加チームのうち、白色ゴールで試合を行うことに対応できたのは、DU-ST、FC-Soromons、Hibikino-Musashiの3チームのみである。)

### 結果の評価と課題

今年はモータ駆動系の作り込みがよく、故障がほとんどなかったため、安定した試合を行うことができた。また、最大の技術課題である白線情報による自己位置同定が正しく実行されていることが分かった。逆に速度指令値を作るためのプログラムの作り込みの甘さが目立ち、不安定な動作を回避するためどうしてもロボットのスピードを抑えなければならなかった。

本学ロボット工房にて十分リハーサルを行い、問題点の洗い出し作業を徹底することが重要であろう。なお、中型リーグのルールは毎年複雑になり、近年ではロボット同士のパス技術が求められている。今年も幾度かパスを試みたものの、受け手ロボットの動き出しに問題がありほとんど成功していない。このような高度なプログラム作成能力が必要になっている。

学生にこのようなプログラムを作成する能力がありプログラムを自作できるようになると、学生自身も試合そのものがより面白くなる。現状ではプログラムの大半を教員が作成している。学生にプログラム作成の指導をどのように行っていくのが大きな課題である。

### 5月4日(水) 予選リーグ

v.s. The Nishikey(東京電機大学) 8-0 勝  
v.s. Hibikino-Musashi(九州工業大学、北九州市立大学、北九州産業学術推進機構) 0-4 負

残念ながら、1台のロボットのモータ回路に問題が発生した。このロボットを控えに回し、3台のみで試合に臨むことにした。

2試合目のHibikino-Musashiはここ数年優勝を続けている強豪チームである。自己位置同定、基本的なロボット運動制御、動作指令のための人工知能、シュートの威力、いずれをとっても日本国内では抜きんでいる。試

合では圧倒的にボールを支配された。しかし、DU-STのロボットはよくディフェンスに回り、相手のドリブルコースを上手く防いでいた。また、たびたびゴール前まで攻められていたが、DU-STのキーパーロボットの機敏な動作により、何点も防ぐことができた。ただし、相手ロボットの強烈なミドルシュートを防ぐことはできなかった。

### 5月5日(木) 準決勝

v.s. Hibikino-Musashi 0-3 負

予選リーグを通して、(1)フリーになったボールへのアプローチが遅い。(2)DU-STのフリーキック時のロボットのポジショニングが悪い。などの問題点が明確になった。そこで、ボール

へのアプローチのためのプログラムを急遽修正した。

準決勝のHibikino-Musashi戦は3日間の中でも最もよいパフォーマンスを見ることができた。しかしながら、まだまだ実力は相手の方が数段上といった印象であった。

## 大同生強化プログラム発足!?

### トレーニングルーム、生まれ変わる

このたび石井記念体育館のトレーニングルームのトレーニングマシンが一新され、ラットプルダウン、レッグエクステンションなどさらに本格的なマシンが導入されました。

腕立て伏せ、腹筋運動など、手軽な筋トレだけではなかなか鍛えることが

できない筋肉を育てます!!

今までトレーニングルームを利用されていた方はもちろん、利用したことがないという方もぜひ利用してみてください!みんなで細マッチョ、ゴリマッチョになりませんか!?





# Rikejo♡コミュ!

Supported by Rikejo

5月29日(日)、大同大学春のオープンキャンパスで、講談社のRikejo[リケジョ]とのコラボによる特別イベントを行いました。8名の先輩リケジョと2名の在学学生が、工学・情報・デザイン分野に興味を持つキッカケとなったお勧め本、現在の仕事や研究について熱くプレゼンしてくれました。そのお話の内容をご紹介します。



進路選びや勉強法など、高校生のみなさんのリアルなお悩みを直接先輩たちにぶつけるフリーディスカッションも。



## 新商品開発で世界を驚かせるのが夢

**明石 茉莉さん**  
(大同特殊鋼 研究開発本部 耐食・耐熱材料研究室)

私がお勧めしたい本は、「中学高校数学のほんとうの使い道」。月の上でゴルフはできるか、ヨットは風下に進めるかなど、すべて数式で計算できるんです!



思えば小さい頃に家の時計を分解しまくっていたのが、私の理系人生の始まりでした。モノを手で触って確かめたい気持ちが、現在の仕事である特殊鋼の材料研究につながっているのでしょう。自分の仕事がどう活かされているか知るために、工場に足を運ぶのも好き。将来は誰もが驚くような新材料を開発し、世界中で利用されるのが夢です。

## 固定観念を捨ててチャレンジしてほしい

**大野 彰子さん**(株マキタ アウトドア製品開発部)

「インシュタインが考えたこと」が私のお勧め。中学生向けで、難しい計算も相対性理論もありません。光の速度で走れば光はどう見えるかなど、斬新な切り口が面白いですよ。



現在、電動工具メーカーで草刈り機を担当しています。会社の空き地に試作品を持ち出して、バッテリーはどれだけ持つかしら、うるさくて早朝は使えないな~とか、あれこれ模索したりも。物事の原理を独自に解明していくのが理系の面白さ。リケジョを目指すなら、固定概念を持たずいろんなことに挑戦してほしいですね。

## 数学の経験も子どもたちに還元できる喜び

**N.M.さん**(数学教師)

私のいち押し本は「わかりやすく伝える技術」です。気づかずに専門用語を使っていないか、相手の立場で伝えているかなど、教える仕事にも通じます。

まだ2ヶ月の新米教師ですが、とにかく子どもが可愛くてたまりません。自分が数学に費やした経験を、彼らに還元できるのが嬉しい。毎日一緒に過ごせる幸せを噛み締めています。大学生活で大切なのは、一生の友達をつくることと、尊敬できる先生に出会うことではないでしょうか。その先は自分で選択した人生だから、腹をくくるしかないですね(笑)。

## 大好きな植物で人の心を豊かにしたい

**橋本 真美さん**(株花ころも 研究開発室)

お勧め本は、「誰でもできるけれど、ごくわずかな人しか実行していない成功の法則」です。参考書を買っただけで後からやればいいじゃない、本当に実行することが大切だと気づきます。



遺伝子配列に関心があったため、大学では生物学を専攻。でも就職先は広いジャンルから決めたかったのと、花が大好きだったこともあり現在の会社へ。培養土や肥料をつくる研究は、コツコツ物事に取り組むのが得意な私にぴったりです。この先も植物で人の心を豊かにできるお手伝いをしていきたいですね。

## 開発が製品につながる時がたまらない

**堀川 久美子さん**(トヨタ テクニカルディベロップメント 現場リーダー)

私のお勧めはズバリ「リケジョ」。読むと、女性の活躍できる理系現場がたくさんあるのがわかります。たとえばランジェリーの繊維組織の開発メーカーなら、男性より女性目線が重要ですよ。



大学時代からエコに興味を持ち始め、その延長で現在は代替エネルギー開発に携わっています。注目のハイブリッド車も担当しているんですよ。仕事をしていて楽しい瞬間は、自分が関わった開発が製品化された時! エコカーを通して少しでも社会に貢献できたら、開発者としてとても幸せです。

## 楽しそうに勉強している学校を選べば正解

**Y.M.さん**  
(セラミックスメーカー 研究開発本部 特殊耐食・耐熱材料研究室)

「理系のための研生活ガイド」をお勧めします。道路をドライブする方法を身につけるのが学習。自ら道路をつくるのが研究。その違いは大きいです。

現在、セラミックスメーカーで電子部品の研究を行っています。部署に女性は私ひとりですが、仕事内容に男女の差はありません。クリーンルームには塵一つ入れられない。粉が精密部品に付着しないよう、メイクも禁止なんですよ(笑)。進路に悩むみなさんへの私からのアドバイスは、とにかくみんなが楽しそうに勉強している学校を選べば間違いはないということです。

## 目指すはかおりのプロフェッショナル

**小川 由美子さん 北里 まりんさん**  
大同大学情報デザイン学科お好みデザイン専攻2年

私のお勧め本は「フランケンシュタイン」。天才科学者と彼がつくった怪物の心理が浮き彫りになって、引き込まれます。もともと文系人間だったのですが、大同では化学も1からじっくり学べて安心。かおりを通して快適な住環境を模索中です。(小川さん)



「香水」という本は、言葉を使っかおりをとともきれいに表現しています。ここで調香師という仕事に憧れ、日本初の「かおりデザイン専攻」を選びました。におい以外にも音や熱などさまざまな実験ができる。目標に向かって毎日が充実しています。(北里さん)

## 大同の恵まれた学習環境が今に生きている

**小松 亜友美さん**  
(株大同ライフサービス 印刷・情報事業部 / 大同大学出身)



私がお勧めしたのは、アニメや漫画の現象を科学的に分析する「空想科学読本」。たとえばハイジのオープニングのブランコのシーン、実際に置き換えたら時速79kmとか! この本は勉強に疲れた時の気分転換にもなりました。

大同大学に入学したのは Web デザイン系の仕事を志したから。先生は柔らかい感性を持ち、機材も充実していて、恵まれた学習環境でした。学んだことは印刷デザインやホームページ作成などの仕事に活かされています。女性らしく可愛いデザインが求められる時は私の出番! と思ってます(笑)。

## 科学の世界をもっと身近にするのが役目

**大塩 立華さん**(自然科学研究機構 生理学研究所)

私が影響を受けた本は「チンパンジーの森へ」。理系出身ではない女性が、大好きなチンパンジーの観察記録で学位まで取り、ついには世界的な研究者になった。好きなことにまっすぐ情熱を傾ける姿勢に打たれました。



現在の仕事は、ひとことでいえば科学の世界を一般にわかりやすく伝えること。研究者と市民をつなぐイベントを企画したり、広報戦略を提案したり。「なんか難しそう」よりも「知ったら面白い」と感じてもらえるよう頑張っています。



澤岡 昭 学長  
中日新聞連載  
「宇宙は手の届くところに」

国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の利用計画に30年前から携わっている澤岡学長が、宇宙開発にかかわる夢のある話や星空に情熱を掲げた人たちのエピソードをつづる「宇宙は手の届くところに」が、2009年6月より中日新聞で連載されています。

当初、「宇宙は手の届くところに」は、1年間・ミッション12で完結する予定でしたが、好評につき継続。なんと連載3年目・ミッション25に突入いたしました。

連載は、毎月第4木曜日に掲載されています。どうぞ、ご覧ください♪



ミッション25  
'11年6月23日



澤岡 昭 学長  
テキスト『電子・光材料』が好評につき、第3刷刊行

澤岡学長が2007年4月に森北出版より出版した『電子・光材料』が多くの高等専門学校等の教科書として採用され、またビジネスマンの副読本として注目された結果、本年3月に第3刷が刊行されました。

本書は近年目覚ましい発展を遂げている電子材料と光材料について、やさしく解説し、たくさんの演習問題を掲載。この本1冊を自習するだけで、相当の基礎知識が得られると評価されています。



佐藤義久 教授 (工学部 電気電子工学科)  
形状記憶合金エンジンを発表

健康に関する一大拠点「ウェルネスバレー」の産業面での利用を推進する取り組みとして、5月27日(金)、あいち健康プラザで、形状記憶合金の研究者や企業関係者らが集まる講演会が開かれました。

記憶合金エンジン」の回転メカニズムや出力特性について解説を行い、従来ただ捨てられていた熱



源を利用した新発電システムについて発表しました。



テレビ朝日『報道ステーション』  
フジテレビ『新報道2001』に出演

4月20日(水)放送の『報道ステーション』。24日(日)放送の『新報道2001』に出演。福島第一原発の原子炉建屋内を無人ロボットが撮影。公開された内部の映像について、解説しました。



▲報道ステーション



▲新報道2001

大東憲二 教授 (工学部 都市環境デザイン学科)  
「初夏のつどい」で講演

6月4日(土)、大同大学大同高等学校で「2011 初夏のつどい・in みなみ」が催されました。「初夏のつどい」とは「私学を良くする愛知父母懇談会(父母懇)」の、全市町村にある父母懇(ブロックと呼びます)が毎年6月に全県下で催す教育集会です。



現状を教えてくださいました。

名古屋市内のつどいでは、オープニングの高校生のパフォーマンスで始まり、全体会では最近の私学助成をめぐる動きの特徴の報告があり、そしてメイン企画では「海拔0mに住む私たち」～地震時の液状化に備えよう～と題して大東教授にご講演をいただきました。非常に詳しい資料を用意していただき、地盤沈下の歴史、

また東日本大震災の被害状況、特に液状化の実際と理論を豊富な写真と分かりやすい図解で教えてくださいました。一同改めて名古屋南部地域の地盤の特徴と危険性、備えの必要性

を痛感させられました。

なお今秋、11月6日(日)には父母懇主催の「オータムフェスティバル」が大学を会場に実施される予定です(記念講演は夜廻り先生・水谷修氏)。



宇野 享 教授 (工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

## CBC『お宝発信タワー DAI-NAMO』に出演

DAIGOさんがMC、レギュラーコメンテーターを天野ひろゆきさん(キャイ〜ン)が務める番組『DAI-NAMO』(毎週水曜19時放送)に、ゲストコメンテーターとして宇野教授が、6月8日(水)に出演しました。



▲ゲストコメンテーター: 神田うのさん、はんにゃ(金田哲さん 川島章良さん)、宇野教授(右)

戦場カメラマンの渡部陽一さんが東海エリアにあるこだわりの住宅を探訪。変形地、崖の上に建つ不思議な家から森の中に降りた宇宙船のような住宅。さらに、間取りが変幻自在に変化する家までこだわりが生み出した住宅が続々と登場。宇野教授が建築家としてコメントしました。



▲番組で紹介された、宇野教授が設計した「おむすび型の別荘」

鷺見哲也 准教授 (工学部 都市環境デザイン学科)

## 岩手県大槌町での調査・支援活動を実施



▲津波により壊滅した大槌町の市街地(4月30日鷺見准教授撮影)



▲大槌町 図書館前の自噴井戸の復旧作業を終えた鷺見准教授

東日本大震災の津波で壊滅的な被害を受けた岩手県大槌町について、鷺見准教授はブログ等を通じて、当地の生物・環境に携わった多数の研究者とともに支援活動や支援に関する情報の発信を続けている。

鷺見准教授はこれまでに大槌町において、リアス式海岸では珍しい海沿いの自噴井や貴重な生息場である湧水の環境調査を行ってきており、関係の研究者らとともにその成果として「大槌の自然、水、人—未来へのメッセージ」を出版した矢先に今回の津波が襲った。

鷺見准教授は4月上旬、下旬の2度現地へ赴き、瓦礫の撤去が進まない現地において津波の浸水状況とその高さについて調査し、5月末にその結果を公表した。この調査時には、公共の自噴井戸を瓦礫の中から仮復旧させ、その様子がEPA通信(European Pressphoto Agency)により海外に配信された。



▲公表した浸水域・痕跡水位の調査結果

鷺見准教授自身も現地の状況をパネルにまとめ、大学祭において写真展示を行った。鷺見准教授は「大槌は役場や職員を失い、復旧・復興が遅れている地域です。災害復興やまちづくりに微力ながら支援していきたい。」と、これからも大槌の町を見守る姿勢を見せる。



▲大学祭・オープンキャンパスでの写真展示

棚橋秀行 准教授 (大学院 工学研究科 修士課程 都市環境デザイン学専攻/工学部 都市環境デザイン学科)

## 「地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会」で発表

6月16日(木)・17日(金)、サンピアンかわさき(川崎市立労働会館)で、「第17回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会」が開催されました。

この会は1991年4月の第1回開催以来、地下水・土壌汚染の実態・原因・経路の調査から、汚染物質の移動機構の解明、汚染による影響やリスクの評価、汚染の防止対策・修復技術・修復

評価、地質・土壌に起因する自然汚染や放射性物質による汚染など、地下水・土壌汚染に関する様々な課題についての国内最大規模の研究集会として、研究成果発表、意見交換や技術交流、人材育成や学習の場としての機能を果たしている研究集会です。

6月17日、棚橋准教授と佐野豊生さん(大学院1年)は「間隙内二液反応発泡による機械油汚

染地盤浄化技術の開発」と題して、口頭発表とポスター発表を組み合わせたハイブリッド形式の研究発表を行いました。また、ポスターの前に設置したパソコンから、棚橋研究室の実験状況の倍速動画を流したことで、普段見ることができない地盤内の油汚染浄化の進行が観察できると多くの汚染現場で実務に携わる方の関心を集め、活発な議論が行われました。

田中秀和 教授 (情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

## 「JABEEと技術士制度」について、講演

名古屋工業大学で電気電子工学特別講義「技術者倫理教育」の第1回が開かれ、田中教授が「JABEEと技術士制度」と題して、講演しました。

田中教授は、情報技術者の教育にあたられると共に、技術士(情報工学部門)の資格を持っており、JABEE(日本技術者教育認定機構)と技術士の制度の関連について、幅広い話題を提供しました。



並木浩一 教授 (情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

## 世界最大規模の時計・宝飾品見本市「バーゼルワールド2011」をレポート

世界最大規模の時計・宝飾品見本市「バーゼルワールド2011」が3月末、スイス北部のバーゼル市で開催されました。バーゼルワールドは、年1回開かれる機械式時計ファン憧れのイベントで、今年は45か国から1892社が出展、3月24日(木)から3月31日(木)までの期間中、10万人以上が来場しました。

時計ジャーナリストとしても活躍している並木教

授が、新作時計の傾向などについて現地で取材。レポートが5月18日(水)の読売新聞(夕刊)に掲載されました。

今回最も注目されたのが、初出展のルイ・ヴィトン。ヴィトンのように、近年服飾・宝飾品ブランドが、高級機械式腕時計の市場に参入するケースが目立つそうです。

また、見本市の開催が東日本大震災直後だっ



たこともあり、被災地への支援を打ち出したブランドもいくつかあったようです。

杉本幸雄 准教授 (情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

## ドキュメンタリー番組を制作、CBCで放送

5月31日(火)、午前10時20分より午前11時20分までの一時間、CBCテレビで、杉本准教授が制作に携わったドキュメンタリー番組「伝える〜しずかにふくらむつぼみ」がCBCスペシャルとして

放送されました。

ドキュメンタリーの主人公は、耳の聞こえない女性ドキュメンタリー作家、今村彩子さんです。

その番組の中には、今村さんが2006年に撮



影した、本学手話サークルの取り組みのシーンもありました。



## 2011 環境デーなごや

### 春の地域行事「市民・事業者エコキャンペーン」

6月25日(土)10時から、学生・教職員含め250人という大人数で、本学は今年度初のエコキャンペーンに参加しました。天気予報では曇りもしくは雨ということでしたが、当日は梅雨の中休みなのか、しっかり晴れました。そして暑い。しかし、暑い。およそ1時間の清掃活動で

したが、周辺地域をひたすらキレイにし、気分晴れやか!でも、暑い。

作業が終わった後、互いに労をねぎらう学生たちの笑顔を、太陽に照らされた汗がひときわ輝かせていたのが、印象的でした。





渡部裕子 講師 (情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

## artの祭典「境内アート小布施 ×苗市」で優秀賞受賞

4月16日(土)、17日(日)に長野県小布施にある、400年の歴史をもつ玄照寺でおこなわれたartの祭典「境内アート小布施×苗市」に渡部講師が出品しました。

800mm×800mmという立方体にテーマをもって書を揮毫し、それを立体的にディスプレイした集合体の一つの作品として出品。重要文化財である山門をはじめとした荘厳な境内に大きな作品が展示されました。

渡部先生の作品は、アート系54作品の中から、優秀賞の2作品に選ばれ、授賞式が玄照寺境内で執り行われました。

また、受賞した作品は、4月18日(月)～4月27日(水)までの10日間、選抜展としてThe Obuse Museum木造館に記念展示されました。展示方法は境内アートのときと異なり、風雅な木造館の中にディスプレイするというもの。一つの作品を丁寧に飾る場所である床の間のなかに、あえて圧迫感を感じさせるが如くディスプレイすることによって、各々がもつ文字の本質的な意味を観者に肌で感じられるような迫力にありました。芸術・アートの発展について町全体で力をいれている小布施町ならではの展示会でした。



## 工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻 西堀賢司研究室

### ロボットを用いた絞り染め体験 -大学祭&オープンキャンパスにて-

西堀研究室は5月29日(日)のオープンキャンパスで「ロボットを用いた絞り染め体験」のワークショップを開催しました。

参加者はロボットにより綿のハンカチに外径6mm(内径2~3mmの2段)、長さ8mmの樹脂キャップ(特許申請中)を装着した後、染料に漬けました。水洗いした後、布を広げて引っ張るとキャップが外れ、白い絞り模様が浮きました(写真)。キャップは再利用できて環境に優しいです。布に絞りの位置をマークし、スイッチを押してロボットを動作させ、絞り染めまで行う体験は参加者に好評でした。あいにく台風の接近により午後1時30分で終了しましたが、53枚のハンカチの絞り体験を行い、記念として持ち帰ってもらうことができました。

世界初の伝統工芸「絞り」における括り作業のロボットによる自動化は、科学技術振興機構の平

成21・22年度地域ニーズ即応型の研究助成によって行われたものであり、絞り体験はその成果の公表でもあります。今回は、日本機械学会東海学生会の「メカライフの世界展」を兼ねていました。

ワークショップでは、共同研究を行っている鳴海絞りを専門とする近清商店と精密部品メーカーの名南機械製作所に協力いただきました。企画・運営には、西堀教授、平田義晴さん・兵藤彰洋さん(大学院 機械工学専攻2年)、宮崎慎也さん・井田勝也さん(ロボティクス学科4年)と横山弥生教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)、平手絵光さん(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻4年)、倉知千明さん・加賀奈緒子さん(プロダクトデザイン専攻3年)が加わりました。

なお、この情報は日経WEBサイト「技術者を応援する情報サイト Tech-On!」で紹介されました。



▲ロボットを用いた絞り染めの体験(手前と奥)



▲布に装着された樹脂キャップ(左)と染めた布(右)

## 情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 杉本幸雄研究室

### 愛知県奥三河地区のCMを制作

杉本准教授の研究室生7人が、愛知県奥三河地区の魅力伝える商業映像3本を制作し、インターネットの動画サイトで公開しています。

これは今年2月に行われた県の「奥三河プロモーションビデオ企画コンテスト」で、13件の応募の中から学生たちの企画が選ばれ、県から制作費の助成を受けて制作されたものです。

学生たちはCMの監督やスケジュール管理などを行って撮影し、編集を進め、3月に「鳳来寺

編」「阿寺の七滝編」「特産品編」と名付けた、それぞれおよそ30秒の映像を完成させました。

映像は、インターネットの動画サイト「ユーチューブ」に投稿されたほか、5月上旬に愛知県や静岡県内のケーブルテレビで放送されています。

この映像は「学生CM 奥三河」と検索し、ご覧になることができます。

また、この情報は「中日新聞(5月17日)」にも掲載・紹介されました。



## 工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻 武藤隆 研究室

### 「大学対抗リノベーション大会 佐久島弘法プロジェクト3」に参加

大正5年から95年間にわたって島民が守ってきた伝統の「佐久島弘法」。過疎と高齢化によって失われつつあった八十八ヶ所の弘法巡りを、建築の力を借りて復活させる「佐久島弘法プロジェクト」。

3回目となる今回、武藤研究室と他、名古屋にある7大学・8研究室の学生たちが壊れかけた祠のリノベーションに取り組みます。これによって、久

しく途絶えていた八十八ヶ所巡りの復活ミッションが完了します。

10月22日(土)に開かれる公開プレゼンテーションでは、半年にわたる調査と設計の成果を、11~12月の現地制作に向けて発表。完成した祠の公開は2012年2月11日(土)から。

なお、この情報は「佐久島からの手紙 Vol.32」で紹介されました。



## 新刊書出版

### 『トマス・ハーディ全集 15-1:詩集I』で訳を担当

共著: 松井豊次 准教授 (教養部 外国語教室)

内田能嗣・押本年真・森松健介他訳『トマス・ハーディ全集 15-1:詩集I』(大阪教育図書)という新刊が出版され、松井准教授も8編の詩の訳を担当しました。

イギリスの国民的大小説家・大詩人、トマス・ハーディの文学世界を鑑賞できる全集。

発行所: 大阪教育図書  
発行日: 2011年03月発売  
定価: 7,350円(税込)

